

『インターンシップ研究年報』第 20 号
研究論文・資料等投稿規程
(2016 年 10 月 1 日)

『インターンシップ研究年報』第 20 号に投稿する「研究論文」及び「資料等」は、次の規程に従うものとする。

1. 「研究論文」及び「資料等」の投稿者は、以下の者であること。
 - i. 日本インターンシップ学会の会員であり、2016 年度の会費を 2017 年 1 月 20 日までに納入していること。
 - ii. 共著の場合、全員が i.を満たしていること。
 - iii.ただし、年報編集委員会から投稿を依頼した場合はこの限りではない。

2. 「研究論文」及び「資料等」は、他の学術雑誌に発表されたことがない、未発表のものであること。投稿者は、それぞれ「論文」、「研究ノート」、「資料」、「活動紹介」に当初から分けて、投稿すること。

3. 使用言語は日本語とする。

4. 「研究論文」を投稿する場合には、「拙著」「拙稿」などの表現や、研究助成、共同研究者への謝辞など、投稿者名が判明もしくは推測できるような表現は避けること。ただし、必要な場合は、採択決定後に加筆することができる。

5. 原稿は、次の点を厳守し、作成すること。
 - i. 原則として、パソコンのワープロで作成することとする。アプリケーションは **MS-WORD** で作成することが好ましい。
 - ii. 和文の場合、句点は全角の「。」(マル)、読点は全角の「、」(テン) を、英文ならびに引用等で用いる欧文の場合、句点は半角の「.」(ピリオド)、読点は半角の「,」(カンマ) を、使用する。
 - iii. タイトル、氏名、所属、要旨、キーワード、図、表、注、参考文献を含めて、A4判横書きで、字数、ページ数は、次のとおりとする。ただし、年報編集委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。
 - ① 「研究論文」 10,000 字 (4 ページ) 以上 20,000 字 (8 ページ)
 - ② 「資料等」 5,000 字 (2 ページ) 以上 20,000 字 (8 ページ) 以内
 - iv. 次項以降特に指定がない場合、文字は、MS 明朝 (欧文の場合は **Times New Roman**)、10 ポイント、とする。欧文は、半角文字を使用する。数字は、半角文字のアラビア数

字を使用する。

- v. 本文は2段組で、1頁を 24 字×50 行×2 段=2,400 字とする。余白は、左右、上下 20mm とする。ただし、第1ページのレイアウトについては、別項で指示する。
- vi. 第1ページは、第1行目から、タイトル、英文タイトル、氏名（所属）、要旨、キーワード（5つまで）、の順に、1段組で記載する。タイトルは、MS ゴシック（英文タイトルは Times New Roman）、12 ポイントで、中央揃えとする。タイトルの次行に、氏名と所属（かっこ付）を右詰めに書く。要旨は、氏名（所属）の後に1行空けて、600 字以内で記載する。
- vii. 本文の章立ては、章、節、項目の3分類を原則とし、MS ゴシック、10 ポイントで左詰めとする。章は、全角文字のアラビア数字、節、項目は、半角のアラビア数字を使用する。

(例) <章> 1., 2., 3.,

<節> 1-1., 1-2.,

<項目> (1), (2),

- viii. 文体は「・・・である」調の記述とする。

- ix. 文献を示す割注の提示は、以下の例に従い、原則として、著者の姓、出版年、始頁、終頁の順に記載する。翻訳文献を示す場合には、著者の姓、原典出版年、翻訳出版年、始頁、終頁の順に記載する。

(例) 「……という指摘がある（吉本 2008、McIntyre and Hagger 1992）。」

「館(2006)によれば、…」

「…と定義されている（Becker 訳書 1976）。」

- x. 注は、原稿の中の該当箇所に（注1）、（注2）……のように、MS 明朝、8 ポイントで表記し、原稿末尾にまとめて記載する。なお、注と参考文献の両方がある場合は、注、参考文献の順に、MS 明朝、8 ポイント、左詰めで記載すること。参考文献は、まず邦文を五十音順で記載し、次に欧文をアルファベット順に記載する。参考文献には、本文または注で触れた文献のみを記載する。

- xi. 参考文献は、以下の例に従って記載する。

<図書の場合> 著者名、発行年、書名、出版社名の順に記載する。

(例) 館昭(2006)『原点に立ち返っての大学改革』東信堂

高良和武（監修）、石田宏之、太田和男、古閑博美、田中宣秀（編）(2007)『インターンシップとキャリアー産学連携教育の実証的研究』学文社

Green, M. E.(1997),“Internship Success”, VGM Career Horizons

<論文の場合> 著者名、発行年、論文名、雑誌名、出版元、巻号、ページの順に記載する。

(例) 吉本圭一(2006)「インターンシップ制度の多様な展開とインターンシップ研究」『インターンシップ研究年報』第9号、日本インターンシップ学会、38-44 頁

(例) McIntyre, D. and Hagger, H. (1992) “Professional Development through the Oxford Internship Model” , British Journal of Educational Studies , Vol. 40, No. 3, pp. 264-283

< 翻訳書・論文の場合 > 原典書誌情報 (図書・論文の場合に準ずる) の後に、 (= 翻訳出版年、訳者名訳、図書・論文名、出版社名) を記載する。

(例) Becker, G. S. (1964), Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis, with Special Reference to Education, University of Chicago Press. (= 1976, 佐野陽子訳『人的資本 - 教育を中心とした理論的・経験的分析 -』東洋館出版社)

< 新聞記事、雑誌、辞典など > 可能な限り、上記文献記載方法にしたがい、執筆者名がわかる場合は記事名の後に執筆者を、新聞記事の場合は掲載年月日を追加する。

< ウェブサイトから引用する場合 > 可能な限り、上記文献記載方法に従い、末尾に URL と最終アクセス日を () 内に記載する。

xii. 図表を使用する場合は、図や表の標題の頭に、図、表の別に通し番号をつける。表題は MS ゴシック、10 ポイント、番号のみ半角文字を使用し、表の場合は表の上に、図の場合は図の下に、それぞれ中央揃えで記載する。出所、注記は、図表の下に付記する (オリジナルの図表の場合は、出所を記さない)。

(例) 図 1、表 1、図 2、図 3、表 2、表 3、...

なお、図表は白黒で作成するのが望ましい。

xiii. 年号の表記は原則として西暦とする。但し、引用文献・論文などの資料名については、元号 (昭和、平成など) で記入されている時には、それをを用いること。

xiv. 明らかな誤字、脱字、余字、熟語など用語の統一については、編集委員会で修正する場合がありますので、留意すること。

6. 締切日は 2017 年 1 月 20 日とする。

7. 原稿は、投稿者 (共同執筆の場合は代表者) が、原則として電子メールに電子ファイルを添付して、投稿者の連絡先 (住所、電話番号、メールアドレス) と共に、下記メールアドレスへ送信すること。

< 送信先 > 日本インターンシップ学会 年報編集委員会

E-mail : jsi- bec@js- internship.jp

8. 原稿は返却しない。

9. 「研究論文」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属、アブストラクト、キーワードを、また、「資料等」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属を記載したものを作成し、編集委員会で指定し

た期日までに、7.の送信先へ電子ファイルで提出すること。タイトル中の名詞は、冒頭を大文字にする。アブストラクトは 200～300 語とする。ネイティブチェックは投稿者の責任でおこなうこととする。

10. 掲載予定の「研究論文」及び「資料等」の取り扱いについては、投稿時点で次のことを承諾したものとみなす。
 - i. 著作権については、本学会に帰属する。
 - ii. 著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。
 - iii. 採択された「研究論文」及び「資料等」は国立情報学研究所電子図書館等に公開される。